

千葉大学

【N021 千葉大学】

	千葉大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:210） 大学院理学研究科（M:117 D:25） 大学院融合科学研究科（M:125 D:21）
沿 革	昭和24（1949）年 学芸学部設置 昭和25（1950）年 学芸学部を文理学部、教育学部に改組 昭和43（1968）年 文理学部の改組により理学部設置 昭和50（1975）年 大学院理学研究科設置 平成8（1996）年 大学院理学研究科を含む3研究科を自然科学研究科に改組 平成19（2007）年 大学院自然科学研究科を理学研究科及び新設の融合科学研究科を含む4研究科に改組
設置目的等	<p>千葉大学理学部前身の学芸学部は、新制国立大学発足時の昭和24年度に設置された。</p> <p>昭和25年に東京医科歯科大学予科の千葉大学合弁を機に、学芸学部を2学部に分離することにより、教育学部とともに文理学部が設置された。文理学部は人文科学、社会科学、自然科学の3課程を持ち、全学の学部学生のための一般教養課程をも担当した。</p> <p>昭和43年文理学部を人文学部、理学部、教養部に分割することで4学科を置く理学部が設置された。</p> <p>昭和50年、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、理論と応用の研究能力を養うことを目的に自然科学系の理学研究科（修士課程）が設置された。</p> <p>平成8年に専門性の高度化と専門間の相互交流拡大という観点を導入し、現代の急激に変動・発展する技術に適応するため、理学、工学及び園芸学の3研究科（修士課程）を区分制博士課程の自然科学研究科に改組した。</p> <p>平成19年に専門学術領域の高度化の著しい進展を背景に自然科学研究科を改組し、理学、工学、園芸学及び融合科学研究科の4研究科に再編した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	千葉大学は、数理の世界や自然界の真理を探求することにより人類の英知を高め、未来を担う若者に理学の基礎と先端的研究を教授することを通して、国際化・情報化の進んだ社会の基盤を支え文化の発展

に寄与することを目指した教育、研究、社会貢献に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 理学や関連する融合領域の深い学識と高度な技術を持ち、学際的で幅広い視野に立った柔軟な思考ができる高度な専門人材育成の役割を果たすとともに、先端的な分野の開拓・発展を担い、国際レベルの研究拠点を形成できる独創的で高度な研究能力を有する先導的人材育成の役割を果たす。
- 先進科学プログラム（飛び入学）で、優れた専門能力を身に付け、様々な機関で先端の研究に携わっている人材を育成してきた。
上記の教育実績を生かし、一般入試で選抜した有望な学部学生に、初年次における導入教育を徹底し、グローバルに活躍できる人材を育てるために大学院まで連続したカリキュラムの充実を図る。
- 物理学は、世界トップクラスの宇宙ニュートリノ研究の実績を生かし、重点的に強化する。また、物理化学と有機化学を中心とする化学や基礎生命科学では、世界トップを目指す研究を強力に推進する。
上記の研究実績を生かし理学や関連する融合領域諸分野の研究を推進し、地域社会の発展や我が国の理学の発展に寄与する。
- 科学展示スペースを構内に設置し、小中高生、社会人に対する自然科学の啓発と普及を図るほか、数学・理科教育の振興、ヨウ素など地域産業界に対する研究を通じた支援及び専門性を生かした公的審議会委員等への就任による社会貢献を行ってきた実績を生かし、学術の進展や地域の知識社会化の推進に寄与する。
- 大学院博士後期課程へ社会人を受け入れてきた実績を生かし、地域の産業界の高度化・活性化に資する。